

□コンセプト

山形県の自然災害を正しく「知り」、「体験」する展示を通じた災害の自分事化

学びのポイント

ターゲット

- 子ども・親など子育て世帯
- 小中学生
- 自主防災組織などの地域団体
- 民間企業など

子どもの頃から育む災害体験、防災意識の向上

山形県ならではの災害特性への意識喚起と周知

自分の身を守ることを、自助の必要性を認識

展示に必要な機能

災害の危機認識

- ・山形県の各地域特性に即した災害への学び
- ・県民一人一人の自助意識の向上

災害の疑似体験

- ・災害疑似体験で正しく恐れる
- ・災害をしっかりと体験する
- ・自分に起こり得る事として学習する

災害に備えた行動・学習

- ・備えることの大切さを学ぶ
- ・具体的な行動を学ぶ
- ・自分がやることとして認識、備える

防災意識の育成・波及

- ・山形県の未来を担う子どもたちの防災意識の育成
- ・持続可能な活動として継続
- ・防災意識・活動が広がるきっかけ

□機能強化に至る経緯

山形県ならではの自然災害

山形県の地域特性と大雨災害等の頻発・激甚化

有識者の意見

体験型学習による災害の自分事化が重要

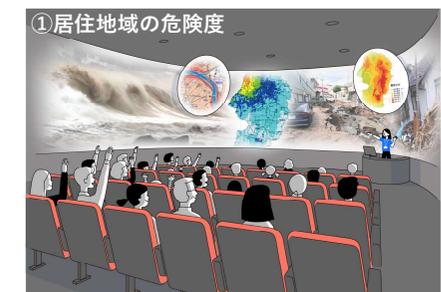
地震体験装置について

故障のため令和5年1月から休止。対応検討が必要

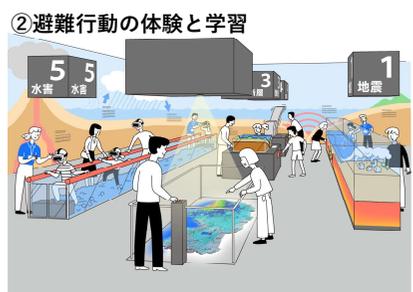
学習内容について

体験設備が消防関係に偏り、自然災害の体験学習が不足

□各コーナーの展示概要（イメージ）



- ・没入感のある大型曲面スクリーンを備えたシアター。
- ・想定される自然災害CG映像を上映。またハザードマップをシステム導入し、来館者のモチベーションを高め「自分事化」を図る。



- ・本県で発生する風水害・地震・津波・火山の災害と、その特徴について、リアルとVRのハイブリットでシミュレーション型装置を導入。
- ・発災時の具体的な現象や避難行動を身につけるとともに、地球科学的な視野で自然災害発生メカニズムを紹介。
- ・具体的な「自助の行動」と「防災情報」を紐づけて記憶に残す。



- ・被害を最小限に留める「さまざまな装備と知恵」実物展示。
- ・発災、避難、避難所生活をシミュレーションするリアルコンテンツ演出。
- ・県内外の地域防災、自主防災組織・活動の重要性を紹介。



- ・施設での様々な体験を定着させるための振り返りの「場」。来館者一人ひとりが地域防災力を高める礎であることを再認識、生活の場へ持ち帰ってもらう。

□展示の基本的な考え方

- 予備知識のない来館者が、山形県の災害特性を踏まえた防災の必要性を理解・体験し、自分事として自助の行動を実践する力を習得。
- 自然災害の脅威とメカニズム、居住地域の危険度認識、防災体験、災害への備え、避難行動など、防災に関する一連の流れをストーリーに沿って学ぶことができる計画。
- 展示体験を一過性のイベントで終わらせることなく、身近な防災活動へ繋げるための機能を設ける。

□展示解説構成

- 展示ストーリーを基に、来館者に分かりやすい案内・解説を構成する。
- 整備目的や展示機能の明確化、県内の他の体験展示との差別化を意識し、山形の自然災害（風水害、津波、地震、火山）を取扱う。
- 既存体験アイテム（地震・消火・煙・応急手当・119番通報）は常設展示から除外、アウトリーチやイベント対応の移動型展示として運営計画にて再整備を図る。

□防災学習機能強化の方向性

利用者対応
～団体受入れ環境の整備～

防災学習イベント等を行う環境を整備し、団体見学の児童・生徒等利用者増加を促進

アウトリーチ
～館外活動強化～

出前講座や起震車による地震体験の提供、訪問型活動等の強化

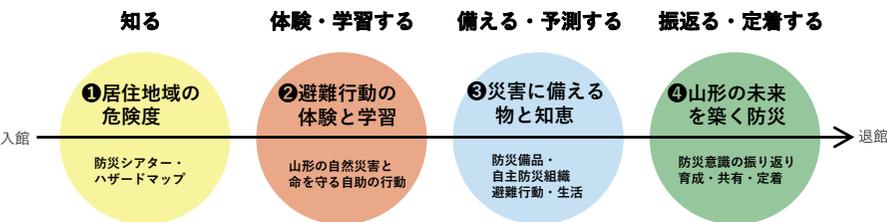
広報PR
～情報発信強化～

HPや各種ツールを活用し、団体見学や防災組織などの利用者の来館を誘引

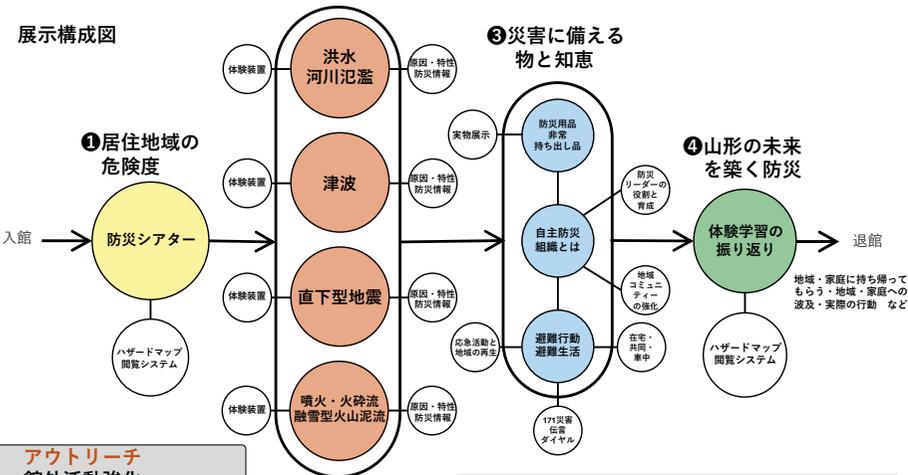
連携活動
～交流活動強化～

鳥海山・飛島ジオパーク等と連携した協働活動の推進と学習機会の拡張

展示ストーリー（展示の流れ）



展示構成図



□スケジュール（予定）

- 令和8年度 基本設計・実施設計
- 令和9～10年度 工事
- 令和11年度 使用開始